

2018年度Ⅲ期

こんなに面白い!

古典文学に親しむ…

# 源氏物語に親しむ

～各巻のあらすじとそのエッセンスを味わう～

講師：青木 登 紀行作家



源氏物語は平安時代の紫式部が書いた世界最高の文学作品。日本人にして、源氏物語を知らずにして無為に過ごすのは惜しい。源氏物語には日本人の感性・喜怒哀楽・生き方・美しい日本の自然など、日本のすべてが凝縮されている。

源氏物語は54帖(巻)から構成され、今回は34帖「若菜上」、光源氏 39 歳からの物語となる。源氏は兄の朱雀院から依頼され、院の三女の女三宮を正妻に迎える。それまで源氏に愛され、源氏と一緒に暮らしていた紫の上の苦悩が始まる。しかし源氏は紫の上の苦悩がわからない。紫の上は心労から病気になる、源氏は紫の上を二条院に移して、一心に看病する。その間に女三宮が柏木の子を宿す。源氏は生まれた子をわが子として育てる。源氏物語は因果応報の物語といわれる。その神髓が「若菜上」と「若菜下」にある。

角田光代訳『源氏物語・中』が十一月に刊行され、その帯に「栄華を極める光源氏への女三宮の降嫁から運命が急変する。因果応報を描く最高峰巻」と宣伝した。角田光代訳『源氏物語・中』は巻 22 「玉鬘」から巻 41 「幻」までである。巻 41 「幻」で源氏が源氏物語から消え、巻 42 「匂宮」から源氏の孫と女三宮が生んだ薫の物語となる。

- 第1回 巻 34 「若菜上」
- 第2回 巻 35 「若菜下」
- 第3回 巻 36 「柏木」 ・ 巻 37 「横笛」
- 第4回 巻 38 「鈴虫」 ・ 巻 39 「夕霧」
- 第5回 巻 40 「御法」 ・ 巻 41 「幻」
- 第6回 巻 42 「匂宮」 ・ 巻 43 「紅梅」 ・ 巻 44 「竹河」



日時 2019年 1 / 10・24 2 / 14・28 3 / 14・28

第②・④木曜日 10:00～12:00

場所 (公財) 社会教育協会 日野市多摩平 1-2-26  
シンデレラビル 3階

(JR 豊田駅北口徒歩 1分 1階が「すき家」)

講師 青木 登 (紀行作家・NHK 多摩カレッジ講師)

参加費 11,970 円(全 6 回・消費税込)教材費 1,200 円別途

申込み 電話か FAX でお申込み下さい。

TEL042-586-6221 FAX042-589-3626

主催 公益財団 社会教育協会 〒191-0062 日野市多摩平 1-2-26 シンデレラビル 3階

【案内図】

